

卷頭言

岡山大学算数・数学教育学会が発足して丁度 20 年になります。この学会が発行する学会誌『パピルス』の特徴は、小・中学校及び高等学校等の学校現場で日常的な算数・数学教育に不断の改善を図り、デマンドサイトのニーズに応じた授業実践研究であると考えています。「ゆとり」から「学力」重視に方向転換され、理数教育の充実（「中央教育審議会答申」、2008）もあって算数・数学教育は重視されています。生徒指導上の問題行動は、分からぬことを押しつけている算数・数学教育に根源があるというマスコミ批判は、今では、なくなりました。新たに、各種アセスメント、とりわけ、全国学力調査の結果が英国のリーディングテーブルに習って都道府県別に成績ランキングが公表され、一喜一憂する状況が生まれています。岡山大学は地域密着型の大学ですので、岡山県の算数・数学教育の充実・発展に資する実践的研究が求められます。したがって、岡山県の小・中学生の算数・数学の学力調査の結果は、デマンドサイトのニーズに応じた算数・数学の授業実践研究を自負する本学会にとっては、関心事の高い事項であります。算数・数学教育の学力の向上の方策は、様々な教育機関においても多角的な視点から検討されていますが、本学会においては、長期的ビジョンとして算数・数学を担当する教員の職能発達（「算数・数学の学習指導力」）の支援を目指しています。算数・数学の学習指導力アップのためには、今現在の算数・数学の学習指導力の現状に満足しないで、授業改善を不斷に実施する授業力アップこそが大切であると考えています。

変動の激しい時代にあっては、グローバル人材、イノベーション人材の育成が求められています。未来を担う子どもたちの教育を担う算数・数学を担当する教員においては、自律的な、学校教育改革、授業改革を探究し、とりわけ、自分の行っている算数・数学の授業を変える自己改革から始めることが重要だと考えます。

理論と実践を融合した算数・数学の学習指導力を養成、採用、研修段階を通じて高めていくことが求められています。この度、学会設立 20 年を機に学会誌『パピルス』を岡山大学のリポジトリに登録しました。これにより、これまでの会員の算数・数学の授業改善の実践的な研究を基礎にした、会員の多数の方々からの更なる授業実践研究の投稿を期待しています。また、こうした不断の算数・数学の授業改善の積み上げが、岡山県内外の算数・数学を担当する教員の学習指導力を高め、子どもの学力向上に資するものになっていくものと考えています。

平成 25 年 10 月 25 日

岡山大学算数・数学教育学会

会長 黒崎東洋郎